

朝鮮産松柏類ノ種類ト分布 (承前)

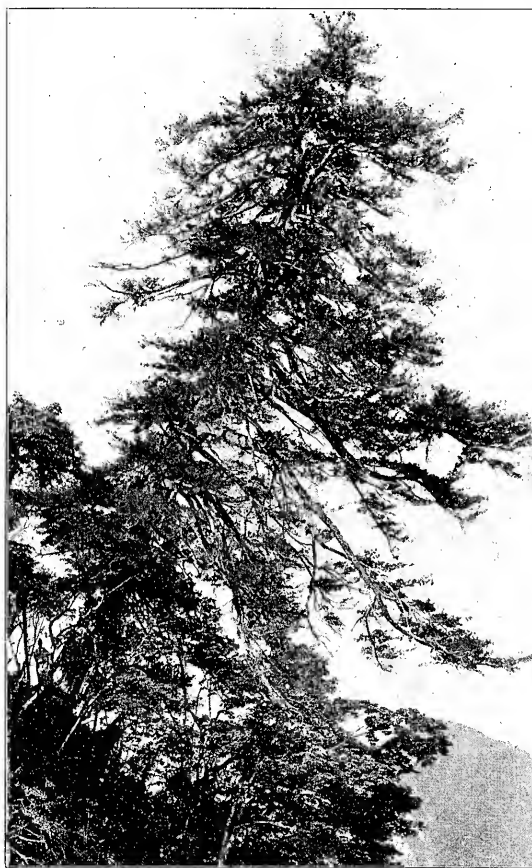
(チナルマン)、横濱、くろしほぐち ▲C. Wrightiana, HARV. 下田、野母崎、琉球、其他、ちゃしほぐち ▲Codium elongatum, J. Ag. 九州、四國、本州、其他、ながみさ ▲Cod. Lindenbergeri, BIND. 横須賀、ひらみさ ▲Cod. mucronatum, J. Ag. var. californicum, J. Ag. 江ノ島、天草、みさ ▲Cod. tenue, KUTZ. 天草、(チナルマン)、S. 々 ▲Enteromorpha linguata, J. Ag. 野母崎 (チナルマン) ▲E. micrococca, KUTZ. 函館 (チナルマン) ▲Halocoryne Wrightii, HARV. 野母崎 ▲Halimeda papyracea, ZANARD. 天草 ○褐藻類 PHAEOPHYCEAE. — Cylindesme bulligera, STROEMF. f. fucicola, YENDO. 堪察加 (チナルマン) ▲Chordaria filiformis, YENDO. (= Haplo-siphon filiformis RUPR.) 白令海 (チナルマン) ○紅藻類 RHODOPHYCEAE. — Galaxaura Schimper, DCESNE. 野母崎 (バーテルセン)

前ニ掲ゲタルチナルマン氏ノ肖像寫眞ハ「ウヰガ」號横須賀在港中同氏ガ佐波一郎氏ヨリ受ケタル好意(旅行、植物採集、標本調製等ノ幫助)ヲ感謝シ歸國後佐波氏ニ贈リ來リシ原寫眞ヲ複寫シタルモノナリ  
 (1) 佐波一郎氏談話 (2) 野口保興、<sup>地誌探検ト地理學</sup>明治四十三年 (3) 大日本文明協會、北極(大正三年) (4) The Great White North: The Story of Polar Exploration by H. S. WRIGHT. (5) 白井光太郎、<sup>増日本博物學年表</sup>明治四十一年 (6) 松村任三、<sup>改正植物名彙</sup>(明治二十八年) (7) 松村任三、帝國植物名鑑、上卷陸花部(明治三十七年) (8) 遠藤吉三郎、海産植物學、明治四十四年 (9) 岡村金太郎、日本藻類名彙、第二版(大正五年)

○朝鮮産松柏類ノ種類ト分布 (承前)

理學博士 中井 猛 之 進

てうせんごふハ名ノ示ス如ク朝鮮ガ其本家ニシテ南ハ智異山ヨリ北ハ咸北、平北ニ及ビ尙ホ國境ヲ越エテ鴨綠江流域ノ滿洲側並ニ暉春地方ニモ生ゼリ此樹ハ甚ダシク乾燥ニ耐エルヲ以テ朝鮮ニ於テハ赤松、からまつト共ニ造林用松柏類ノ三鼎足ヲナス我邦ニモ信濃アルプス、甲信アルプス、日光山彙等ニ自生スルハ人ノ知ル所ナリ其毬果ハ重ク水中ニ落レバ沈下ス木鼠ハ好ンデ其種子ヲ食フ材ハ柃目正シク割レバ二間餘モ正直ニ裂ル事



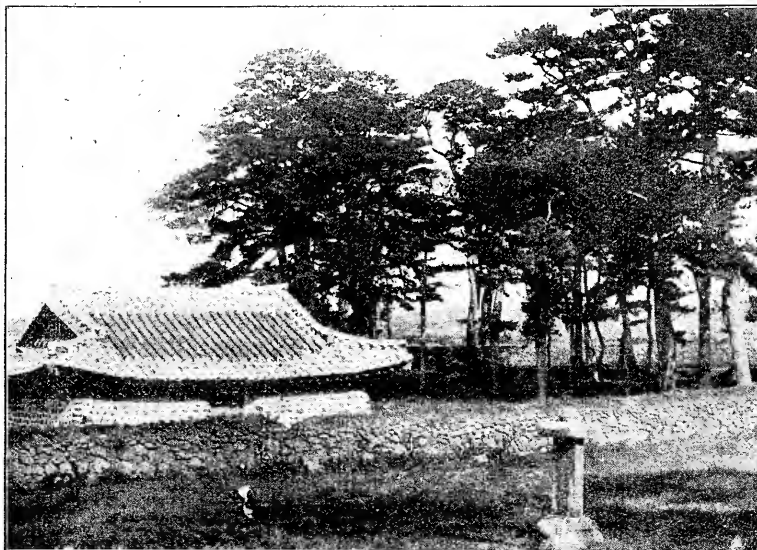
鬱陵島南陽洞ノ山奥ニ殘存スル島内第一ノひめこまつ  
(*Pinus parviflora*, Sieb. et Zucc.)ノ老樹ナリ、向テ  
左ニ立テル鮮人ト比較シテ其大サヲ想見スベシ

恰モ竹ヲ割ルガ如シ朝鮮産松柏類中最良材ヲ供ス又其種子ハ朝鮮料理ニ缺クベカラザルモノニシテ鮮人ハ之ヲ食ヘバ氣力ヲ増シ長命スルヲ信ジ「良妻ハ夫ニ松ノ實ヲス、ム」ノ諺サヘアリ如何ナル處ニ生ズルモ亭々タル直幹ヲナシ金剛山ノ頂界線ノ岩上ニ生ズルモノ、如キハ遠ク之ヲ望メバ宛モ竹カト怪マル ●ひめこまつハ僅ニ鬱陵島ノミ生ズ本來大木多ク余ハ南陽洞ニ於テ高サ百二十尺許幹ノ直徑目通り四尺許ノモノヲ見タリ以前ハ此島ノ主要樹ノ一タリシモ年々巨濟島其他ノ土人ガ古船ニ乘リ來リテ此樹ヲ伐リ之ヲ割テ船ヲ作り此新

造船ニ乗テ去リ斯クシテ年ヲ經シ爲メ漸次ニ其數ヲ減ジ今ハ只岩角若クハ山脊ニノミ僅ニ其餘喘ヲ保ツニ過ギズ是レ誠ニ惜ムベシトス ●はひまつモ亦分布ノ廣キ種ニシテ北部ノ高山ハ白頭山ヲ除キ大凡五千尺以上ノ山ニハ生ゼザル處ナク中部ニアリテハ、金剛山、雪岳山ニ至リテ盡ク國外ニアリテハ北ハバイカル地方ヨリカムチャッカニ達シ我國ニテハ樺太、千島、北海道



咸鏡南道ト平安北道トノ界ニアル鷲峯ノはひまつ (*Pinus pumila*, REGEL.)  
林ナリ之レニ混生スルひのき様ノ葉ノモノハにほひねずコナリ



濟州島濟州城外三姓穴ノくろまつ (*Pinus Thunbergii*, PARR.) 林ニシテ約  
二百餘年ヲ經タル老樹ノミナリ而シテ該樹ハ概ネ移植品ニ係ル



鬱陵島羅里洞(ラリコル)ニアルつが(*Tsuga Sieboldii*, Carr.)

ノ自生品ニシテニ株トモ目通りノ直徑三尺餘アリ

ヨリ本州ノ中央山系ニ達ス ●くろまつハ濟州島  
 ニノミ自生シ近時ハ栽培品ト混ジテ自生品ト區別スル  
 ニ困ムモノ多シ南部ノ群島並ニ本土ノ南部ニアルモノ  
 ハ何レモ移植品ニシテ老木トナルコト内地ト異ナルナ  
 シ造林用ニ植エタルハ平安南道ノ南部ニアル中和ニ於  
 テモ能ク生育シ相當ノ發育ヲ遂ゲタリ ●にほひ  
 ねづこハ朝鮮並ニ滿洲ノ特産ニシテ狼林山系、鸞峰連  
 山、周峰連山ヨリ南ハ金剛山、雪岳山ニ至リ中央脊梁  
 ニノミ限ラレ滿洲モ其連繫ト見ルベキ周峰ノ北ニ當レ  
 ル十三道溝ヨリ十五道溝ニ互ル間ニノミ生ズ極メテ密  
 生シ易ク北部ノ山地ニアルモノハ匐松林ヨリモ通過ニ  
 困難ナリ葉ノ香氣ハ北米産ノ *Thunja occi-*  
*dentalis*, L. ト伯仲ノ間ニアリ ●うがハひめこま  
 つト同ジク鬱陵島ニノミ生ジ同島山林樹ノ主要分子ヲ  
 ナシ直徑三尺以上ノ大木ニ乏シカラズつがハ日本ノ特  
 産植物ニシテ此島ハ其分布ノ西極ニ當リ屋久島ハ其南  
 極ニ當レリ ●いてふハ栽植植物中其分布廣ク濟  
 州島ニハ尙未ダ其移植ヲ見ザレドモ朝鮮本土ニアリテ  
 ハ其南端ヨリ北ハ平安北道ニ至ル特ニ江界邑内ニアル

『斷枝片葉』ニ誘ハレテ

モノ、如キハ合抱ノ老樹ナレドモ年々其末梢ハ寒氣ニ枯死ス朝鮮ニテハやちだも、けやき、えんじゅト共ニ最モ大木トナル

●このてがしハ忠清北道丹陽郡梅浦面ニテハ山中ニ純林ヲ成ス此種ハ自生地未詳ニテ其本土ハ朝鮮ノ如ケレドモ梅浦面ノ自生様林ノ附近ニハ舊新羅ノ寺院ノ遺跡アリト云ヘバ未ダ朝鮮本來ノ自生品ト謂フヲ得ズ

## ○『斷枝片葉』ニ誘ハレテ

東京植物同好會會員 中尾清太郎

はんげノ意義ニ就テ 半夏ノ名稱ハ上ハ神農本草經ヨリ下ハ本草綱目ニモ出テキルノデスカラ之ヲ世人ガ聞キ

慣レヌ鴉柄杓ナドノ和名デ稱ヘルヨリハイッソ支那的ニ半夏ト呼ンダ方ガ興味ガアリハシナイカト思ヒマス先

ヅツレハ本草カラデナク曆カラ見テ「五月、半夏生」ト云フノハドウ云フ譯カト考ヘテミマスノニソレハ彼ノ

地ノ五月ノ氣候デハ「半夏生ズ」ルユエニコノ頃ヲ「半夏生」ト云ッタモノデスカラソノ植物ノ名ハ半夏デ名

ノ由來ハ即チ「半夏ニ生ズル草」(半夏トハ蓋シ夏ノ半バノ意)ダカラ半夏ト呼ンダモノト思ヒマス、ソレ故

私ハ之ヲ單ニはんげト呼ンダ方ガ其由來ニ對シテオモシロイカト存ジマス ●椅ノ訓ミ方ニ就テ 椅ヲい

いざりト訓ンデキマスガ私ハ自分ノ日本語ノ知識カラいいト云フ綴方ハ無イト思ヒマス大抵ノ植物學書ニハサ

ウナツテキマスガコレハ恐ラクいいざり(飯桐)デ古ハ此樹ノ葉ニ飯ヲ包ンダカラダト云フ『言海』ノ著者ノ

説ニ私ハ賛意ヲ表スルモノデアリマス ●何首烏ノ事 日外出版サレタ某農學士ノ「新藥栽培書」(?)ヲ

一寸見マスト「烏首何」ト出テキマシタガ此著者ハ此植物ノ名稱モ又其植物自體ノ事モヨク知ラナイデタマ引

用ノ書物ニ「烏首何」ト誤植ガシテアツタノヲ其儘採用シタノダラウト思ヒマス ●おほいぬふぐり其他ニ

就テ 議論ヲスレバ長クモナリマスガ私ハ疾クヨリ野草改良ト云フ意見ヲ懷イテキル者デアリマスソレヲ煎ジ